

科目名		聴覚障害演習			授業の種類	演習	講師名		
授業回数	15回	時間数	30時間	(1単位)	配当学年・時期	言語聴覚士科3年		必修・選択	必修
〔授業の目的・ねらい〕									
聴覚の発達とその障害の多様性について習得する。									
〔授業全体の内容の概要〕									
言語聴覚障害の種類の1つとしての聴覚障害について学ぶ。									
〔講師の実務経験〕									
〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕									
聴覚障害の基礎とその障害への対応について理解する。									
回数	講義内容								
1	オリエンテーション								
2	聴覚経路とその障害（1）								
3	聴覚経路とその障害（2）								
4	伝音難聴と感音難聴（1）								
5	伝音難聴と感音難聴（2）								
6	伝音難聴と感音難聴（3）								
7	聴覚の発達（1）								
8	聴覚の発達（2）								
9	聴覚障害とコミュニケーション・モダリティー（1）								
10	聴覚障害とコミュニケーション・モダリティー（2）								
11	補聴器と人工内耳（1）								
12	補聴器と人工内耳（2）								
13	聴覚障害へのアプローチ（1）								
14	聴覚障害へのアプローチ（2）								
15	まとめ								

【 準備学習・時間外学習 】

--

【 使用テキスト 】

書籍名	著者名	出版社
聴覚検査の実際 改訂5版	日本聴覚医学会 山嵜達也	南山堂

【 単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など） 】

試験の結果を100点満点として成績を評価する。試験は定期試験のみ実施とし、60点以上の場合に科目を認定する。
--